



隣のお嬢様一家との
奇妙でドエロな関係

母娘係3代にわたって中出し孕ませ

近所のお屋敷の美人な奥様やお嬢様やその娘さんが
あなたのチ○コの虜に♡
フルカラー70ページ

これからお前に語るのは
ワシとある富豪一家の奥様や娘達との
奇妙な関係の話じゃ……

昭和〇〇年
——夏——

雨上がりの空には
綺麗な虹が架かっていた

ボクはその虹に向かって
土手の上を無我夢中で
走っている

虹のたもとを
見てみたかったんだ

はあ
はあ
はあ
はあ
はあ
はあ
はあ

でも……走っても走っても
虹は一向に近づいてこない

わあっ

虹ばかり見ていたせいか
石につまづいて転んでしまった

くっそお
泥だらけに
なっちゃったよ

ボク……大丈夫？



声をかけられ
顔をあげると
一人の女の人が見えた

その女の方は虹のたもとに
立っているように見えた

隣のお嬢様一家との
奇妙でドエロな関係
母娘孫 3代にわたって中出し孕ませ





ボク……使い方よくわからないでしょ
教えてあげるわよ

えっあ……
ありがとう……
ございます

母ちゃんの裸は
見慣れているのに……

この女の人の裸を
見ていると……

下半身がなんだかすごく
もぞもぞする……

あら……

くすくす……



こんなに大きく
しちゃって……

……でも……コレ……
旦那様と同じくらい……

いや……ひよつとしたら
それ以上の……



こ……ここも……
綺麗にしておきましようね

うっあっんっんっあっ
あっんっうっあっ……

あっあっあっあっあっ

凄い……
どくんどくんって……
脈打っているのがわかる

あぁっ……
へん……へんだよ
気持ちいいよお

あぁおしっこ……
おしっこでちやううう

いいのよ出していいのよ
たくさん出して……

止められないよお

あぁっでちやうううう





……このオチ○チンの
赤ちゃんが欲しい……

女の本能が……
私のオマ○コが……

私の子宮がこの精子を
欲しがっている

……ね……ねえ

ねえ……ボク
もつと……気持ち良
くなりたい……？

う……うん

じゃあ……
これからすることは
絶対に秘密ね♥

はああああ♥

入って来る
入って来るうう

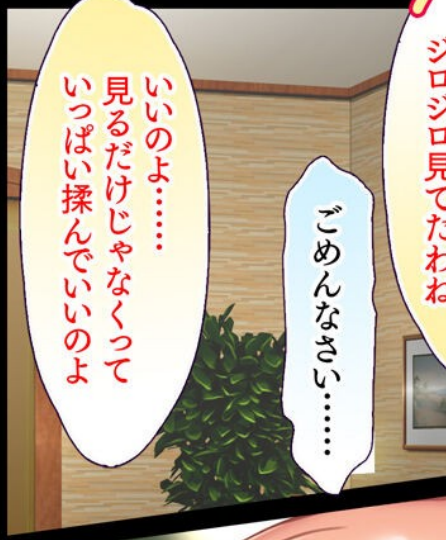




私の膣内に
オチ○チンが
入ってるうう

ああああ何これえ
オチ○チンが
気持ちいいよお

うれしいわあ
おばさんのオマ○コで
気持ちよくなってくれて



そういえば
さつきはおっぱい
ジロジロ見てたわね

ごめんなさい……

いいのよ……
見るだけじゃなくって
いっぱい揉んでいいのよ



ああすごい
柔らかくって
気持ちいい

おばさんも
おっぱい揉んでもらって
気持ちいいわよ

あーあ

はあはあ……気持ちいいよ
オチ○チンがすごい気持ち良くなってきたよ

お婆さんのオマ○コの中
あつたかくつてぬるぬるしてて
すごい気持ちいいよおお

お婆さんも気持ちいいわ
ボクのオチ○チンすごい
すごい気持ちいいのお

こんなに気持ちよく
なったの初めてえつ

旦那様のモノより
私のオマ○コにしっくり
きちやつてるのお

あつまた
さっきの白いおしっこが
出そうになってきたよ

出して……出しているのよ
このまま膣内に出してえ

あああ出すよ
おばさんの中に……

千代子よ……
千代子って呼んでっ

ふああああああ

白いおしっこ止まらないよ
千代子さんっ

出してっ
おばさん出してっのよ

私の子宮の中
白いおしっこで
いっぱいにしてえ

そしてボクは
日が暮れるまで
白いおしっこを
千代子さんの中に
出し続けた

数ヶ月後
—— 初秋 ——

ボクは友達の家
に遊びに行くため
にいつもの土手
の上を走っていた

あらボク
久しぶりね

はあ
はあ
はあ
はあ
はあ
はあ

突然声をかけられ
足を止め振り向くと……
忘れられない女の人が
立っていた

あつ……千代子さん
久しぶりです

ふふっ あのと
き以来ね

は……はいっ

思い出すとまた
オチ○チンが大きくなつて
きてしまう

実はね 私妊娠したのよ

えっそ……それは
おめでとうございます

ありがとう……

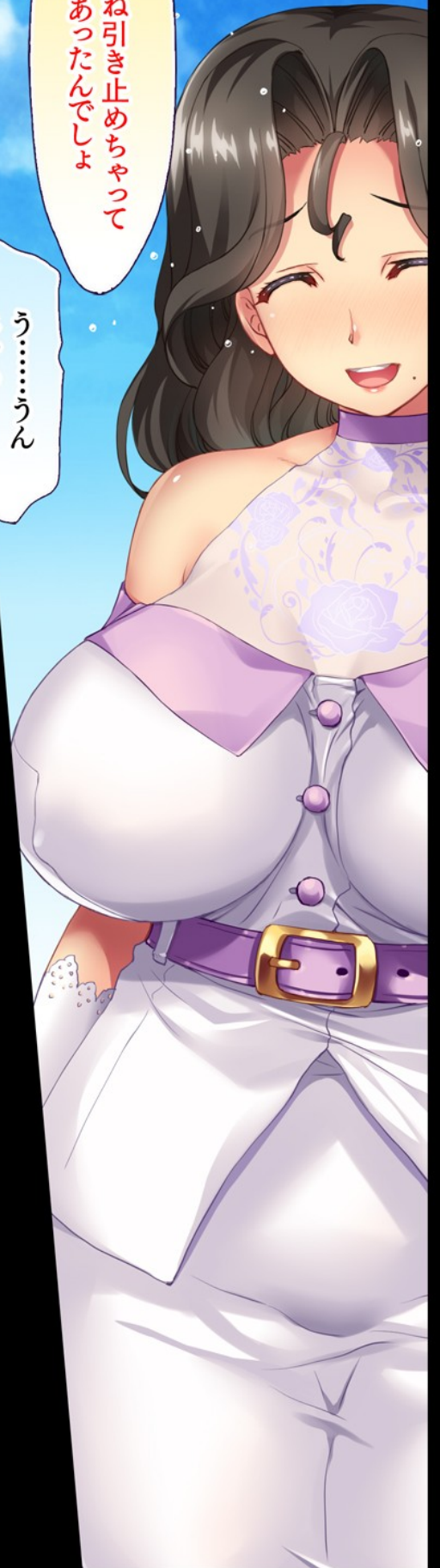
ごめんね引き止めちゃって
用事があったんでしょ

う……うん
じゃあ……

ボクがまた走り出すと
背中からうっすらと
声が聞こえてきた

じゃあねパパ

……は……？



〇〇年後
——夏——

にわか雨があがり
空には綺麗な虹が
かかっている

僕はほのかな期待をこめて
この土手の上に立っている

そう……あの日以来
出会えていないその女性に
巡り会える予感がしたんだ

すると仲の良さそうな
母と娘のが歩いてきた

そして——

母親の方は
見覚えがあった

……そう
僕が会いたかった女性
千代子さんだ

あら……久しぶりね
元気だった……？

あれから何年もたっているのに
あまり変わっていない……
むしろ妖艶な魅力が増している



そちらのお子さんは
千代子さんの……

そうよ……ちあ
ごめんなつて……

こんにちわっ
ぱぱ ♡

ぱぱ……？

そういえば
前にも……

ふふっ……
気になくていいのよ

この子誰にでもぱぱって
言っちゃうんだから

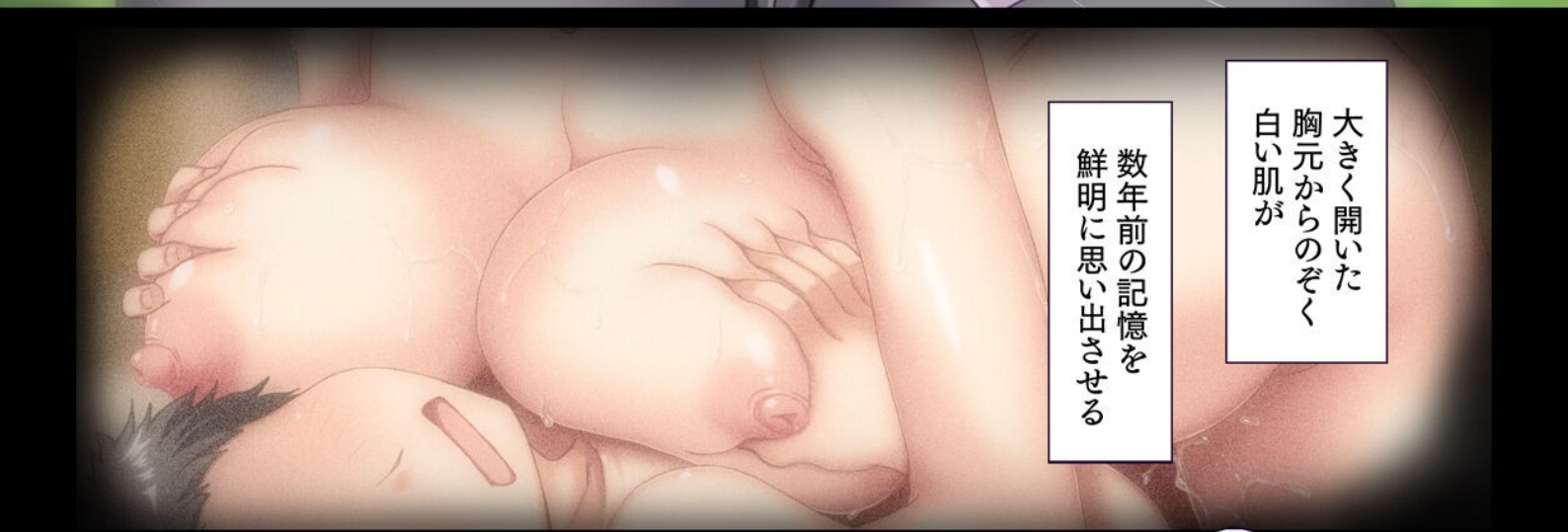
……そうなんですか？



それよりもボクう
大きくなったわねえ

ああ失礼……
もうボクじゃないわね

そう会話しながら
僕は千代子さんから
目が離せなかった



大きく開いた
胸元からのぞく
白い肌

数年前の記憶を
鮮明に思い出させる

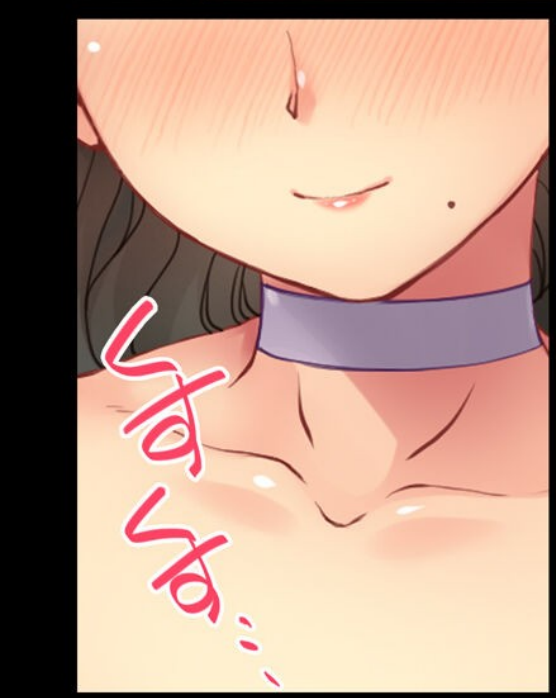


うふふつ……
そっちの方も大きく
成長したのかしら？

いつの間にかチ○コが
ギンギンになっていた



いや……あの……



すくね……



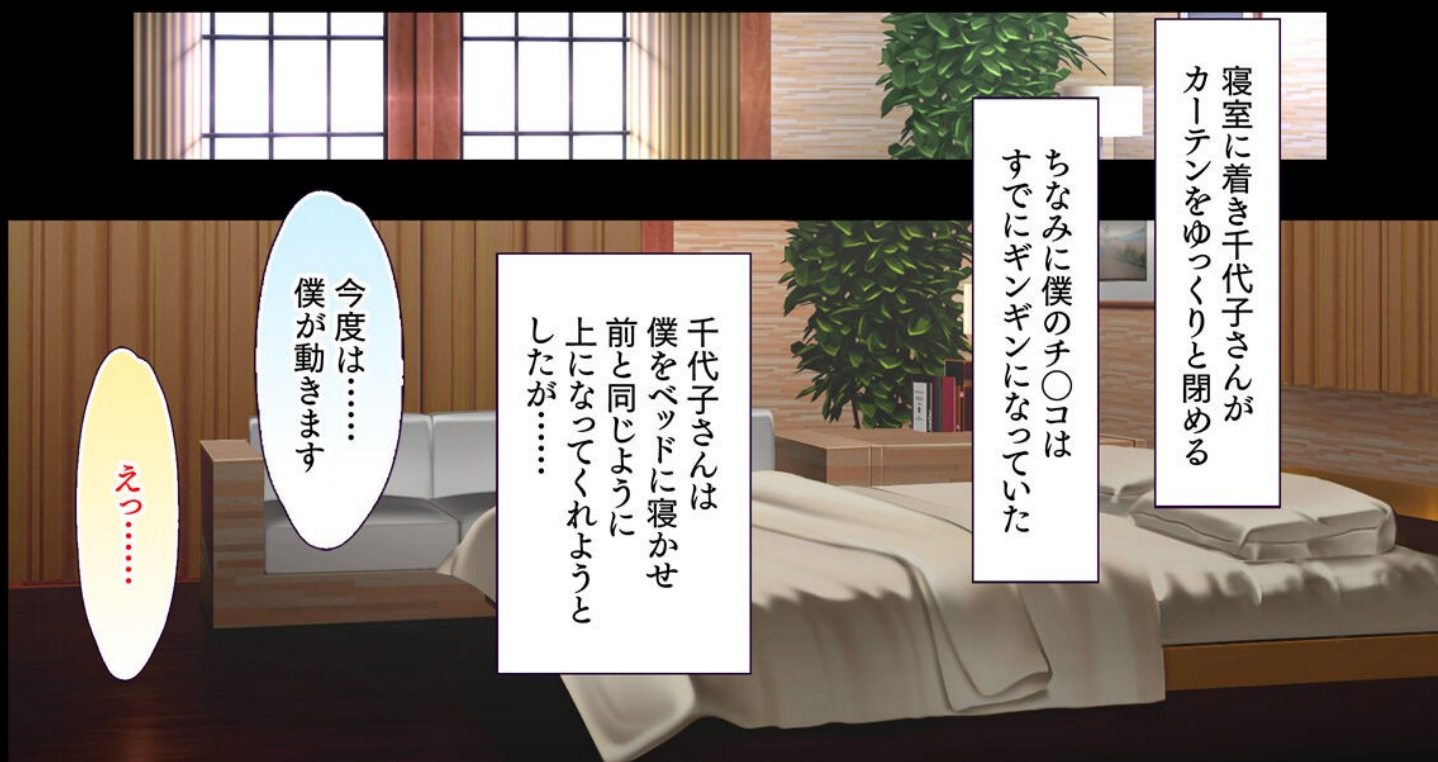
また……気持ちよく
なりたいの……？



あの……その……
は……はい……

ふふっ……いいわよ

また私の家に
いきましょ



寝室に着き千代子さんが
カーテンをゆつくりと閉める

ちなみに僕のチ○コは
すでにギンギンになっていた

千代子さんは
僕をベッドに寝かせ
前と同じように
上になつてくれようと
したが……

今度は……
僕が動きます

えっ……

千代子さんをベッドに
寝かせると……

僕はすでにギンギンに
なっているチ○コを
思いっきりマ○コにぶち込んだ

だめええ 凄いいいい

すごいいいい
おくう奥にずんずん
きてるううう

A close-up illustration of a person's face and hands. The person has light skin and is looking down with a soft expression. Their hands are positioned near their face, with fingers slightly curled. Large, stylized red text 'あな' (A-na) is overlaid on the image, appearing twice. There are also small red hearts scattered around the text. The overall style is soft and romantic, with a focus on the person's features and the affectionate text.



三



ああああ
オチ○チンが奥にガンガン
当たって……あひんっ

あひあああああ
イクイクイクっ

あひま

いつちやうつ
いつちやううう

お母様……？

お母様大丈夫……？

別の部屋にいた娘さんが
お母さんの大きな喘ぎ声をきいて
心配して見に来たのだろう

……ああのね……

困る僕を横目に
千代子さんは
焦った様子もなく
優しく微笑んだ

大丈夫よ……咲耶

身体を少し起こしつつも
僕とつながったままで
娘さんと話している

ママとっても
気持ちよかっただけだから
……お部屋に戻ってなさい

しかし娘さんは
もじもじしてて
動く気配がない

もじもじもじ……



咲耶……
見たいの？

娘さんは真っ赤に
なりながら
うなずいている

こく……



くすつ
しょうがない娘ねえ

咲耶……こつちに
いらっしやい……

ねえ……
このままでできるでしょ
オチ○チン硬い
ままだし……

えっ？

咲耶……よく見てね
ママの気持ちいいところ



千代子さんは娘の咲耶に
見せつけるように激しく乱れた

先に出した精液と千代子さんの
愛液でぐちよぐちよになった
マ○コからは僕のチ○コを出し入れ
するたびにいやらしい音が響いた



今度はマ○コから抜いたばかりの
チ○コを興味津々で見ている



母親と僕の激しいセックスを
見ていた娘の咲耶は――



女の本能がそうさせるのか……？
咲耶はなんとも言えない愉悦の表情を浮かべ
おずおずと僕のモノに顔を近づけた

おずおず



咲耶……彼のオチ○チンを
なめなめして綺麗に
してあげたら？

はい……お母様

にこ

咲耶は
おぼつかない手つきで
僕のチ○コに触れてきた

そして先っぽの方を
ゆつくりと舐める

おいちい……

そうそう……
先っぽの方は
敏感だから優しく
丁寧に舐めるのよ

ふわい……お母しやま

咲耶は精液と愛液がたっぷりついた
僕のチ○コを嬉しそうに舐めている

気持ちいいんですか？
うれしいですっ

でも
気持ちいいです

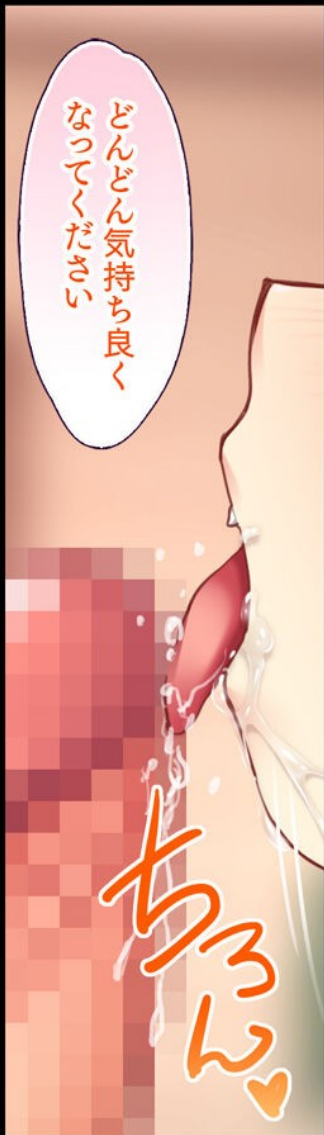
はい……
ちよつときこちない
感じですが……

どう……
私の娘の
舌使いは？



オチ○チンの
裏側のところも
舐めてあげると
いいわよ

うん-
うん-♡



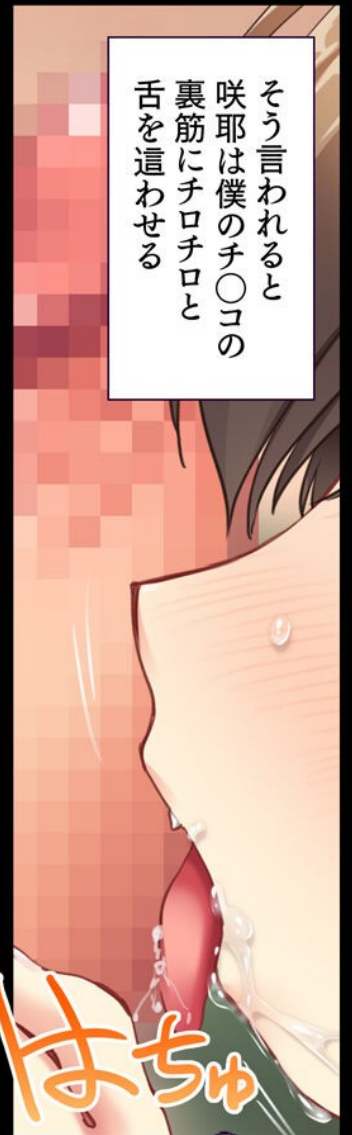
どんどん気持ち良くなつてくたさい

ちゅん♡



そんなに舐められたら
オチ○チンどんどん気持ち良くなっちゃうよ

ちゅちゅちゅ



そう言われると
咲耶は僕のチ○コの
裏筋にチロチロと
舌を這わせる

はちゅ



はむ♡

ふわい……

ふふ……咲耶……そろそろ
啜えてあげなさい

小さな口を一生懸命開けて
僕のチ○コを迎え入れる

そうそう……
頭を上下に動かして……

うれしいか……
ひもちいいれすか……

ああ……とっても
気持ちいいよ

そう言いながら
頭をなでてやると
嬉しそうに微笑む

もつと気持ち良くなり
たいからもう少し速く
動いてくれるかな

ふわい♥

あぁ……
だいぶ気持ち
良くなったきた
もういきそうだ

速く動きながらも
舌は休まずチ○コに絡みつき
舐めまわしてくる

ろうぞ……
ほのままいっへ
ふだしい

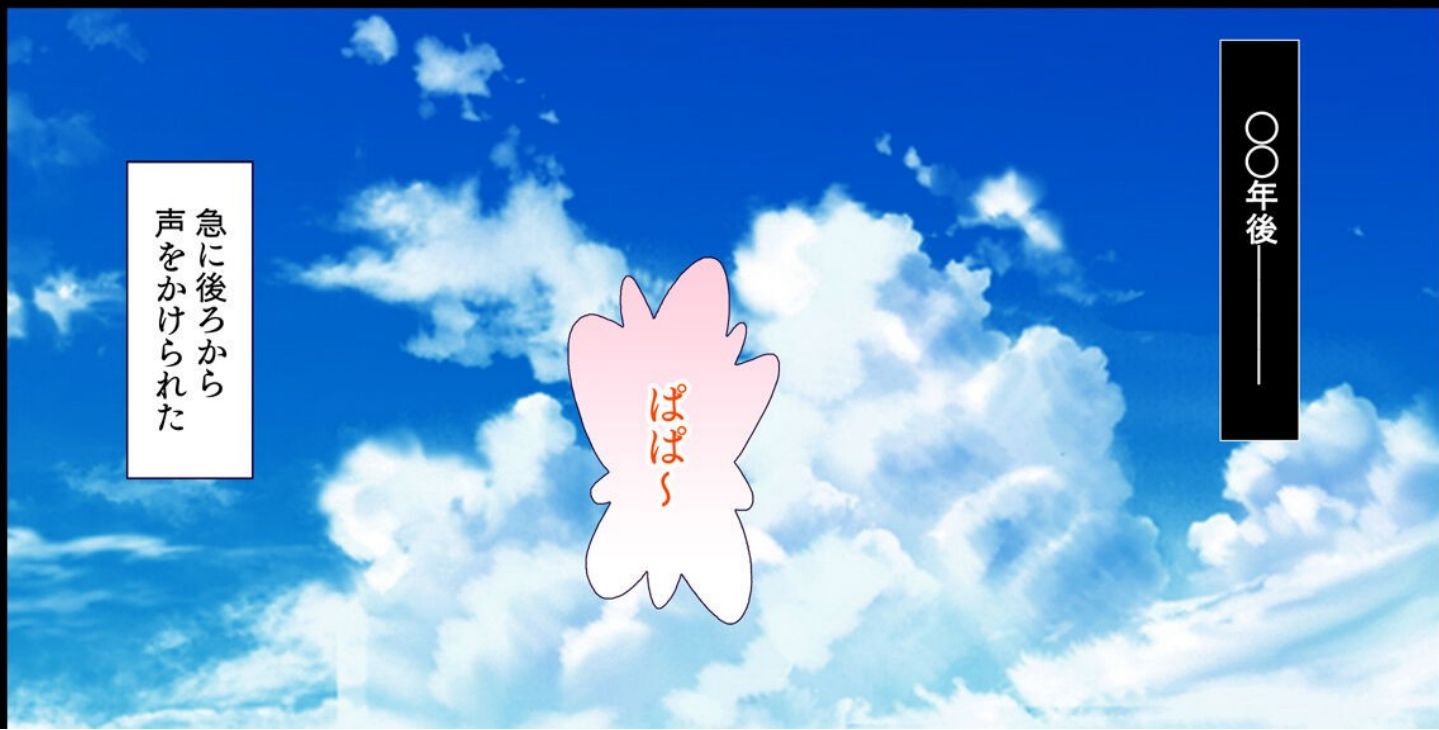
ちゅぽん

いくぞっ

僕はそのまま咲耶の
喉の奥に射精した



この後夕暮れまで
僕のチ○コを
母娘そろって
ぺろぺろしてくれた



〇〇年後――

急に後ろから
声をかけられた

びっくりして振り向くと……
そこには見慣れない女の子が立っていた

……？

制服から察するに駅向こうの
お嬢様女子学園に通っているのだろう

誰だかわからず困った顔をしていると
その少女は屈託のない笑顔でこう言った

あなたのオチ○チンを啜えた感触
まだ覚えているわよ♡

それに精子の味もね♪





へん……へんだよお

初めてなのに
気持ちいいよお

初めてなのに……
こんなに感じちゃうなんて
恥ずかしいよお

ズッ
ズッ
ズッ

恥ずかしくなんかないよ
俺は感じてくれて嬉しい

きっと俺のチ○コと
咲耶のオマ○コ
相性ばっちりなんだよ

あああああ
嬉しいい

シゅわ
シゅわ
シゅわ
シゅわ

あなたのオチ○チン思い出して
ずうーっとオナニーしてたのが
よかったのかなあ

そうなんだ
俺も嬉しいよ

もにゅ
もにゅ

もにゅ

うんっ スキスキっ

そんなに俺の
好きなのか？

らってあんっ
こんなに……んっ
気持ちいいんらん

好き好き
大大だ
うい好き

はひ♡





ま……まあ……

元気してたさ

ひ……ひょろろ……

色々訊きたいことが
あったはずだったが
急なことだったので
言葉が思うように
出てこない

とっぴんぱらぁ……

セックスしよう

えっ！

えっだ…だって……

だって……
結婚したんじゃ……



頭がパニックっている
間に咲耶のお屋敷に
着いていた

いいから
いいから

んゝまあ……
そゝなんだけどおゝ



私のオマ○コが
喜んじやつてるよお

ああああああああ
やつぱりこのオチ○チン
最高おおおおお



気持ちいい
気持ちいいよおお

こんなことして
いいのかなあ……

との思いとは裏腹に
チ○コはいつもより
ギンギンになっている

ねえ私のオマ○コ
気持ちいい？

ああもちろん最高だよ

うれしいいい

嬉しくって
オマ○コキュンキュン
しちゃうう



だめえもう
いつちやうう

どくどくどくどく

俺も……
いきそうだ

いいの欲しいの
大好きなあなたの赤ちゃん
欲しいののおおお

なかに中に頂戴いい

……でもっ

孕ませてえっ
あなたの子種で孕ませてえええ

射精したが
俺はそのまま
腰を振り続ける

しゅきしゅきしゅきしゅき
しゅきしゅきしゅきしゅき

おんおんおんおん

俺の子種で
孕みたいんだろ
もっといっぱい
射精してやるよ

いつちやつてるからあ

ああだめえ
いつてる

ちよ……ちよつと休ませてえ

い……いきまくつて……んっ
おかしくなつちやうよおお

ジュパッ
ジュパッ

はひん
ん
ぽん

ビッ

ビガッ

ビッ

ゼッ

ゼッ
ゼッ
ゼッ

ゼッ

ゼッ
ゼッ



らめええオマ○コお
オマ○コいきっぱなしに
なっひやううう

気持ちよすぎて
おかしくなっちゃう
よおお

また出すぞっ
咲耶のマ○コの中
俺の精子でいっぱいに
してやるよ

しえいしえい
しえいしきてるううう

オマ○コいっぱいの
しあわせえええええ

俺の精子を子宮に
ぱんぱんにためた咲耶は
お腹をさすりながら
幸せそうに帰って行った

〇〇年後

夏

空を見上げると
大きな虹がかかっていた

久しぶりに
虹を見たなあ

仲の良さそうな
母と娘の姿が見える

と呟きつつ
視線を下ろすと……

……ん？前にも
こんなことが……





あら！ひさしぶり！

ん？ああつ咲耶か

ひさしぶりだなあ

大きくなったなあ！
お母さんの千代子さんに
そっくりだよ

そちらは娘さん？

娘さんも昔の
咲耶にそっくりだね

それにしても
咲耶は本当に
お母さんに似て……

大人の色香を備えた
ドエロい身体に成長
したなあ



娘さんも
昔の咲耶にそっくりで
年の割にはエッチい
身体をしている



くすつ……年をとつても
あいかわらず
元気なオチ○チンね



私のオマ○コも……
濡れてきちゃう

ねえ……久しぶりに
あなたのオチ○チンが
欲しくなってきた



やっぱりこのオチ○チン
最高うう大好きいいいい



俺も凄い気持ちいい

……が
少し気になることが……

ところで咲耶……
さつきからずくと
娘さんが見ているん
だけど……

娘の『唯』よ
私に似て可愛いでしょ

ほら、あつあつして

唯ですよろしく
お願いします……

いや……こんな状態で
あつあつされても

いいのよ気にしないで

だって見たいうって
言うんだもの
昔の私と同じね

興味深々なのよ……

……いいなら
いいんだが……

だからもつとお
もつとオチ○チン
動かしてえ

はいよ





俺はマ○コの奥まで
チ○コをねじ込んでやる

はうわああああ

おくううううう
奥にきちえりゅうう

がつん がつん
当ってりゅううう

しゃん



そして下からおっぱいを
荒々しく揉みまくる

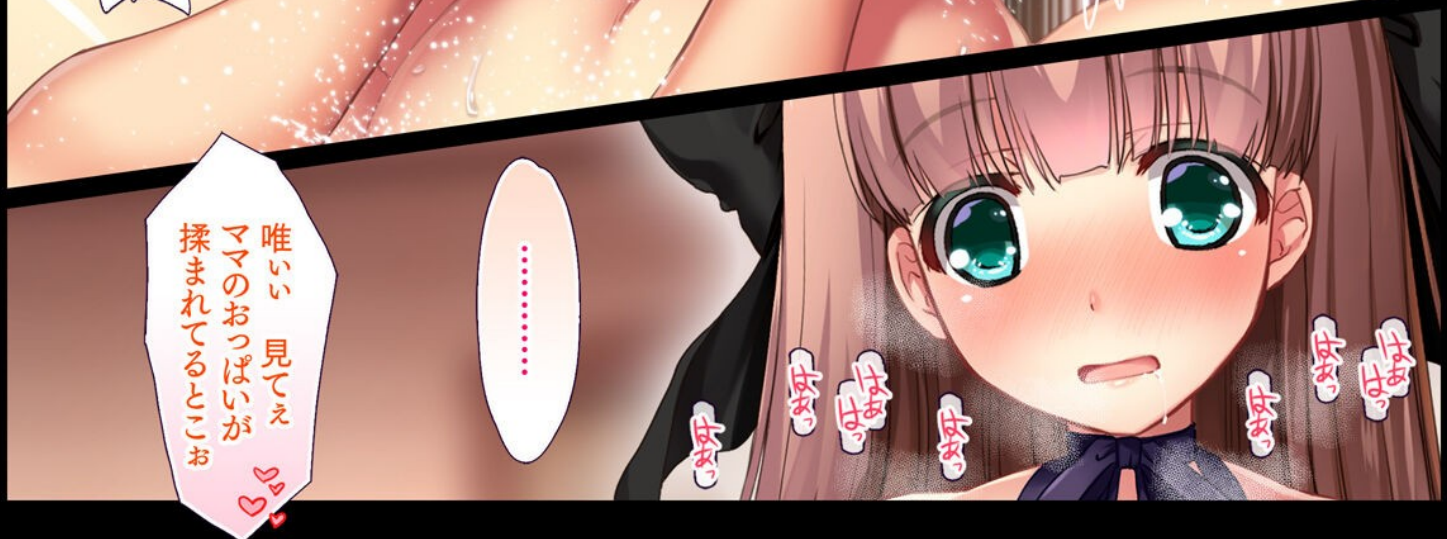
ぐに

はひ

はひ

ぐに

ひぎいいいい
気持ちいいいい



唯いい 見てえ
ママのおっぱいが
揉まれてるとこお

.....

はあ はあ はあ はあ はあ

唯 見て見て
ママのオマ○コにオチ○チンが
入っていると.....

ママおっぱい揉まれて
オマ○コにオチ○チン
入れられて気持ち良くな
つちやつてるのお

気持ち良くてママのオマ○コ
濡れまくってぐちよぐちよに
なつちやつてるのお

すっごい気持ちいいのよおお

しゃん しゃん

唯……こつちにいらつしやい……

ほら……
服を脱いで……

はい……
お母様……

今度は一緒に……
三人で楽しみましよう



咲耶は仰向けに
寝そべると唯を
自身の上に乗せた

後ろから見ると
ふたりのマ○コが重なって
かなりいい具合にエロい



さあ唯……
自分でおねだりしなさい

唯の……オマ○コに
お……オチ○チンを
入れて……ください

俺は……
薄ピンク色の唯のマ○コに
チ○コをあてがう……

そしてゆつくりと
ゆつくりと挿入していく

ひぐううっ

大丈夫？痛くない？

うん……大丈夫……
だから……

そのまま……オチ○チン
唯の……オマ○コに……
入れてください



先の母親との行為を
見ていたせいか
唯のマ○コはかなり
濡れている

……が
俺のチ○コを
収めるには
かなり小さい

それでもこの
キツキツのマ○コに
ゆつくりとチ○コを
動かしていると……

徐々に唯の喘ぎ声が
聞こえてきた

唯 気持ちいいの？

オマ○コが……
キュンキュンしてるの

……痛いけど気持ちいいの

もつと……もつと
オチ○チン欲しいの

俺は腰の動きを
加速させた

それなら……

ふわあああ オマ○コお
オマ○コがおいしいのお

オマ○コからくる……
なんかきちゃうよお

いいのよ……
それがイクってことよ

ああ……イク……イクっ
いっちゃうよおおおお

は

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

ふふ……
初いきね可愛い♡

ねえ……
オチ○チンまだ満足
してないでしょ♡

私のオマ○コも使って♡

さつきまでえ……ああ
娘のオマ○コに入っていた
オチ○チンがぁ……♡

私の……♡♡♡
私のオマ○コに
入ってきたぁ

オマ○コキュンキュン
しちゃうのぉ♡♡

ああああああああ
オチ○チン気持ちいい♡



俺もお前のマ○コ
大好きだぞ

だってえ
大好きなオチ○チンが
私のオマ○コに
入ってるんだもの

そんなこと言われたら
オマ○コ嬉しすぎて
もうぐちよぐちよになっちゃう

動いてえ
もつと激しく
動いてえ

もつと激しくうう
私のオマ○コめちやくちや
にしてえ

いいいいい
気持ちいいいい

ズンズンズン

じゃぽ
じゃぽ
じゃぽ

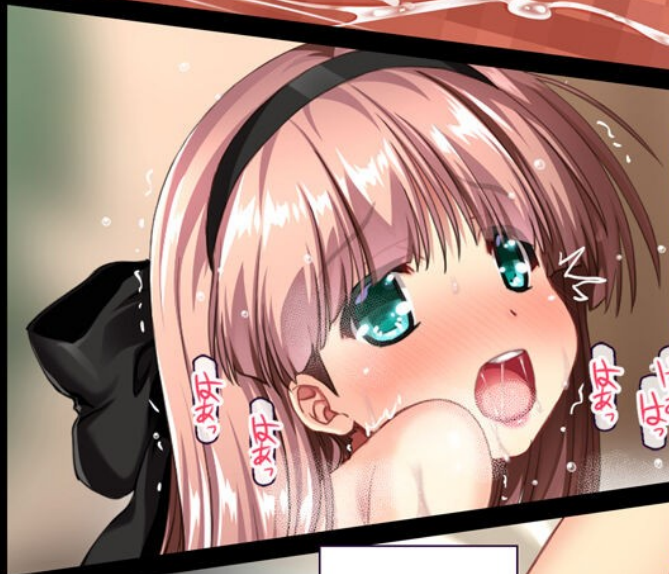


ズンズンズン



出してえ
いっぱい出してえ

出すぞっ



ゆい……唯の
オマ○コにも……
中出し……して
ください



俺は
請われるままに
唯にも
中出しする

そしてその後も
ふたりのマ○コに
溢れるほどたっぷり
中出ししてやった……

あれから数年――

たまに咲耶と唯に会っては
セックスしていた

そして今日も
あのお屋敷に行く

こんにちは

今日はいいわよまた今度ね
唯といっぱいセックスしてあげて♡

咲耶も
久しぶりにするか？

あらこんにちは
今日も唯とセックスし
きたの？



ねえねえ早く部屋に行って
エッチなことしよっ

唯はエッチだなあ

むう私がエッチになるのは
あなただけなんだからねっ

しかし気付くと
こいつも成長したな〜

チ○コがギンギンに
なってきた

よしっ
じゃあそろそろ
セックスしようか

うんっ♪





おまえのマ○コも
俺のチ○コに
ぴったりサイズに
なったな

だつてえ小さい時から
あなたのオチ○チンだけ
入れてきたんだから……

このオチ○チン
の形のオマ○コになっ
ちゃてるんだから

そうかおまえのマ○コは
俺のチ○コが育てたのか

そうよ……
あなた専用の
オマ○コなのよ

よしっじゃあ
スパートいくぞっ

きてきてえ 私のオマ○コ
犯しまくつてえええ

私をめちゃくちゃにしてえ

スパー



心地よい疲労とともに
唯のマ○コに精液を
流し込む……

……すると
唯がちよつと
寂しそうに呟いた

私ね……今度
お金持ちのボンボンと
結婚することになったの

そうか……

俺はそうとしか
言えなかった

そんな俺を見た
唯は笑顔で……

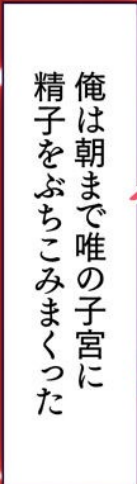
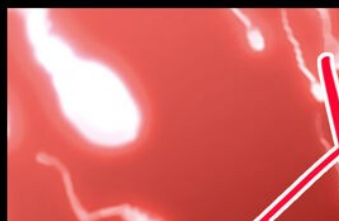
だからねっ
今日はいっぱい
中出ししてっ
いっぱいっ
中出しして♡

よしわかった

あなたの精子で
私を孕ませてっ

あなたの赤ちゃん
欲しいのお♡

俺は唯を激しく犯しまくった
そして唯は乱れに乱れまくった





……でだ

……その人が
お前のお母さんという
話なんだが……

聞いとるか？

聞いとらんな……

……ん？

だっておじいちゃんの
オチ○チンおいしいんだもん

ふはっ♡

おおつ
もうすぐ出そうだぞ

らしてえ
いっぱいらしてえええ

茶茶

こうして奇妙な生活は
今も続いている

おじいちゃん
こつちこつち

早くベッドに
横になつてえ

おじいちゃんは動かなくていいよ
私が動くから♡

はひい
い
い
い
い
い
い
い
い
い
い
い

おじいちゃんのオチ○チン
しやいこうううううう

















